

2022年9月実績概要（メモ）

（2022.10.20）

エチレン及び誘導品の生産は、定修影響が未だ続くものの、内外需の下振れから減産が明らかとなる。

1. 生産動向

イ) エチレン 405,000トン

前月比 ▲18.0% (▲88,900トン)

前年同月比 ▲24.4% (▲130,800トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲3.2%	—
定修要因等	▲11.8%	▲13.3%
能力増減	—	—
稼働率変動	▲3.0%	▲11.1%
生産増減率	▲18.0%	▲24.4%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月85.8%* → 当月83.2% ← 前年同月93.5%

定修プラント：前月2社2プラント → 当月1社1プラント ← 前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数減少と定修規模差や稼働率要因から LDPE、PS、SM、MMA モノマー、EG、AN、SBR、ベンゼン、トルエンなどの16品目がマイナス。キシレンのみはプラスとなった。

前年比は、定修規模差と稼働率要因等から LDPE、HDPE、PP、PS、SM、塩ビモノマー、MMA モノマー、EO、EG、AN、SBR、ベンゼン、トルエン、キシレンなど15品目がマイナス。BR など2品目のみはプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、LDPE、PS は日数減に加えて定修規模と稼働率要因から、HDPE、PP は主に稼働率要因から減産となり、それぞれマイナスとなった。

前年比は、LDPE、HDPE は稼働率要因を主因に、また、PP、PS は定修規模差と稼働率要因からいずれもマイナスとなり、4樹脂でマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

物価上昇が続く中、消費マインドは、弱含みが続いている。産業分野においては、鋳工業の生産計画は部材供給不足の緩和もあり、電気・情報通信機械の増加を中心に4カ月連続して上昇が見込まれているが、生産活動のマインドとしては下方修正のマインドが未だ多くを占めている。

汎用樹脂の出荷は、前月は夏季休暇によりユーザー産業の稼働日数の関係から出荷が一時的に減少したが、当月は通常月に戻り、LDPE、HDPE、PP、PS とともに前月比は二桁台のプラスとなった。前年比では、供給量の減少もあり、LDPE、HDPE、PP の3樹脂は9月単月で、近年では最低レベルの出荷量となった。

分野別の出荷動向でも、4樹脂ともにいずれの出荷分野においても前年を割り込み、特に LDPE はフィルム分野、HDPE はフィルム分野や射出成形分野、PP は射出成形分野やフィルム分野、PS は包装分野を中心として出荷が大きく減少することとなった。

ハ) 輸出

前月比は、主要輸出先の中国の需要鈍化から引き合いは依然として弱く、市況も軟化しており、LDPE、PP は僅かながら増加がみられたが、HDPE、PS はマイナスとなった。前年比は、PP を除く3樹脂でマイナスが継続している。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して LDPE、PS は減少し、HDPE、PP は増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPE は前月並み、HDPE、PP は僅かに上昇、PS は低下した。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP は高め、PS はほぼ適正水準に近づきつつある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		8月末	9月末
LDPE	▲23,300	3.6	3.6
HDPE	+7,600	4.0	4.1
P P	+9,300	3.3	3.4
P S	▲12,100	2.4	2.1

以上

前月からの修正を*で付記